



土岐市  
TEL  
FAX  
メールアドレス  
所報  
発行責任者  
発行日  
題字

教育研究所  
0572-54-1111 (内371)  
0572-55-6310  
kyoiku@city.toki.lg.jp  
No.550  
所長 長谷川 広和  
令和2年3月10日  
山田 恭正 教育長



撮影者 泉小学校

安藤 早紀 先生

『ほっこり ペア読書』  
(二・五年生)



## 努力は必ず報われる

土岐市教育研究所長 長谷川 広和

今年度、子どもたちを表彰する機会に、何度も参加させていただきました。湧き出てくる素朴な疑問やその子らしい追究の歩み、大人では想像できない発想の豊かさや積み重ねてきた努力の厚みなど、創り上げた作品や大会での結果から、子どものもつ可能性の大きさを感じました。また、表彰式で見せる子どもたちの笑顔と見守る保護者や関係者の方々の温かなまなざしに触れ、人との絆のなかで子どもたちは自分への自信を深め、夢を大きく膨らませていくのだと思いました。

**「努力は必ず報われると、私、高橋みなみは、人生をもって証明します。」**

これは、AKB48の初代総監督を務めた高橋みなみさんの総選挙の度に言った言葉です。彼女は自分にとって最後の総選挙で、「努力は必ず報われるとは限らない。そんなのわかっています。でも、私は頑張っている人が報われて欲しい。みんな目標や夢があると思うんだけど、その頑張りがいつ報われるとか、いつ評価されるのかとかはわからない。でも、わからない道を歩き続けなければいけない。きついけどさ。誰も見ていないとか思わないで欲しい・・・。」と語ったそうです。

子どもたちには、今後訪れる予測不能とも言わ

れる変化の著しい社会を、夢をもち、自分の可能性を信じて、たくましく生き抜いていって欲しいと願います。だから、先のことを想像し、その結果ばかりを気にして不安に思い込んだりせず、目標をもち、自分を信じて“今”をしっかりと努力して生きようと訴えているこの言葉は、私たち教師が大切にすべきことを教えてくれています。子どもにとって一番身近な大人である私たちが、努力することの尊さや素晴らしさを伝えることや願いや夢をもって努力する子どもの歩みを見守り認めることがとても大切になると思います。

来年度から、5カ年計画の第二次土岐市教育振興基本計画「夢・絆プラン」がスタートします。

### 人との絆の中で

ふるさとへの愛着と誇りをもち

夢を実現できる人を育てる土岐の教育

この理念のもと、私たち教職員が結集し、地域や保護者の皆さんと協働しながら、土岐市の未来を担う子どもたちの夢を、そして夢に向かって歩み出す勇気を育んでいきましょう。

令和元年度 道徳教育指導者養成研修報告  
「特別の教科 道徳」の授業について  
駄知中学校 河地貴司

## 1 はじめに

「特別の教科道徳」（以下道徳科という）が始まりました。茨城県つくば市にある教員支援機構で行われた「道徳教育」についての5日間の研修会に参加した内容の一部を報告いたします。

## 2 道徳教育の中の道徳科の授業

道徳教育は、日常生活や教科、特別活動、総合的な学習の時間など全教育活動で行います。道徳科の時間では、上記で取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うことや指導を一層深めること、内容項目の相互の関連を捉えなおしたり発展させたりする時間として行います。

## 3 道徳科の授業で大切にすること

新学習指導要領で目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、道徳科においては「考え、議論する道徳」を目指します。その手立てとして、次のような学習指導過程を大切にします。

- ・問題意識をもつ
- ・自分との関わりで捉えて考える
- ・多面的・多角的に考える
- ・自らを振り返る
- ・自己の生き方について考えを深める

これらの学習指導過程により、自己を見つめ物事を多面的・多角的に考え、生き方についての考えを深める学習を展開します。特に自己の生き方について考えを深める過程では、自分自身の体験や自分との関わりで考えを深めることが大切です。

また、次の①～③のように多様な指導方法を工夫することも大切です。

①読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習：教材の登場人物の判断と心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えるを通して、道徳的価値の理解を深める。

②問題解決的な学習：児童生徒の考えの根拠を問う発問や問題場面を自分に当てはめて考えてみることを促す発問などを通じて、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる。

③道徳的行為に関する体験的な学習：疑似体験的な活動（役割演技など）を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することで、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

さらに、こうした道徳科の授業をつくるためには、内容項目の理解、子どもの実態把握、教材の効果的な活用といった教師の指導の明確な意図が必要です。

## 4 道徳科の評価で大切にすること

「道徳教育」に関わる評価については、今までにも、教育活動全体で見られた児童生徒の道徳的な行為の評価として、指導要録の「行動の記録」や「総合所見及び指導上参考となる諸事項」に記述しています。

「道徳科」の評価については、「児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすように努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする」とされています。（第3章特別の教科道徳の第3）

道徳科のねらいは道徳性を養うことですが、道徳性が養われたかどうかを評価するのは難しいです。また、「ねらいとする道徳的価値が理解できたか」についても、理解させることを目的として評価する他の教科とは異なるため、道徳科の評価は、次の2つの視点により、学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価し、記述します。

- ①児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

個々の内容項目ごとではなく、大きなまとまりを踏まえ、他の生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかにか成長したかを積極的に受け止め、認め、励ます個人内評価をします。

大切なのは、児童生徒が自らの成長を実感し、意欲の向上につながるように評価することです。

# 令和元年度 土岐市教育実践論文入賞者

NO	賞	学校名	教科・領域	氏名	論文テーマ	東教推
一般の部	優秀賞	泉中	体育/保健体育	稲山 竜太	男女共習ダンスを通して創り出す、高めあう学習集団の醸成	優良賞
	優秀賞	泉中	算数/数学	片山 侑希	直前先行学習「班予習」で生まれる主体的な学び	入選
	優良賞	泉中	社会	橋本 壮平	マインドマップを用いた理解力と表現力を高める学び	入選
	優良賞	土岐津小	外国語活動	研究推進部	主体的にコミュニケーションを図ることができる児童の育成 ～自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる 基礎的な力を身に付けることを通して～	入選
	優良賞	泉小	体育/保健体育	松田 絵梨沙	運動の楽しさを味わい、できる喜びを実感する体育学習 ～台上前転の指導を通して～	入選
新人の部	新人賞	土岐津中	道徳	今西 賀寿真	対話的な活動を重視し、 道徳的価値や問題を考え続ける生徒を育てる特別の教科道徳の実践	新人賞
	新人賞	土岐津小	外国語活動	引地 奈々恵	主体的にコミュニケーションを図ることができる児童の育成 ～どの子も自信をもって発話できる外国語活動を目指して～	入選
	新人賞	泉西小	道徳	近藤 綾香	多面的・多角的な思考を引き出し、自己を見つめ、 よりよい生き方について考えを深める児童の育成	入選
	新人賞	妻木小	その他	坂井 岳生	家庭学習の質を高める,ICTによる支援の在り方 ～タブレット端末,Web学習支援システムを用いて考える～	入選
	入選	駄知小	算数/数学	小島 優美香	「たし算」や「ひき算」が正確にできる子を増やす指導 ～算数科の実践を通して～	
	入選	肥田小	算数/数学	田口 俊介	仲間とともによりよい自分を求め続ける子 ～算数科の思考力育成を目指して～	
	入選	西陵中	英語	松葉 祐太	コミュニケーションに挑み続ける生徒の育成を目指して ～新学習指導要領への移行に向けた言語活動の在り方と 「できた・わかった」を生徒が実感できる指導を追い求めて～	
	入選	泉中	理科	伊藤 宏紀	科学的な見方・考え方から課題追究できる生徒の育成	

## 令和元年度 土岐市実践記録入賞者一覧

賞	学校名	氏名	作品（記録）名
特別賞	泉西幼稚園	三輪 敏成	週報
特別賞	駄知中学校	板橋 晋司	学級通信
教育長賞	泉幼稚園	古川 紀恵	年間の壁面制作の記録
教育長賞	土岐津小学校	日比野 友記	つながる食育～体験から実践へ～
教育長賞	駄知小学校	米田 由起子 小島 優美香 谷口 由佳 鵜飼 剛	道徳授業の黒板記録（H30,H31）
教育長賞	肥田小学校	坪井 真紀	特別支援 英語教材
教育長賞	西陵中学校	河合 哲仁	学級経営支援のための主幹通信
教育長賞	濃南中学校	林 裕二	タブレットを活用した授業実践記録

※実践記録入賞作品は、来年度の第1回市教研活動日に展示します。

～おめでとうございます～

### ◇令和元年度 岐阜県ふるさと教育表彰

《優秀賞》妻木小学校 濃南小学校 濃南中学校

### ◇令和元年度 人権教育表彰

《人権文化あふれる学校賞》泉小学校

《ひびきあい賞》駄知幼稚園 土岐津小学校 下石小学校 泉小学校  
濃南中学校 駄知中学校

### ◇第15回道徳教育奨励賞 《優良賞》泉中学校 《努力賞》濃南中学校

### ◇第36回東京海上教育研究助成授与 泉中学校

### ◇令和元年度 東濃地区教育推進協議会教育実践研究奨励賞

#### 「実践記録、教材・教具の部」入賞作品

土岐津小学校 水野 和正 理科「3D人体模型」

濃南小学校 加藤 三保子 保健指導「熱中症をふせごう」

駄知小学校 鵜飼 剛 社会「すぐに使える授業用教材（デジタル版）」

泉小学校 福田 奈美子 特別の教科 道徳「地域の伝統を大切に守り受け継ぐ方への  
インタビュー動画」

西陵中学校 渡邊 宏彦 数学「立方体切断面提示教具」「回転体提示教具」  
「球の表面積説明教具」「球の体積説明教具」

泉中学校 小池 智明 生徒指導「生徒指導だより」

※東濃教育事務所ホームページに詳しい作品の説明や写真が掲載されています。

# 令和元年度 土岐市教育実践論文の講評

審査委員長 土岐市立下石小学校長  
古川 直利

土岐市の小・中学校教育方針「子どもを大切にし、学ぶ楽しさのある授業を行い、生きる力を育む」をふまえ、日々の教育実践をもとに指導法の成果と課題を提示していただきました教職員のみなさまに感謝を申し上げます。

現在、教育界では新学習指導要領に向けての準備が始まり、特別の教科道徳、総合的な学習におけるプログラミング、各教科の主体的な学びを探る実践などが試行されております。児童・生徒に確かな学力を付けたい、あるいは豊かな心を育み、たくましく生きる力を育てたいという先生方の思いが伝わる実践論文が多く見られました。

今回の教育実践論文についての成果や課題を記します。

## 1. 応募の状況

### (1) 応募点数、応募者と教科領域

出品総数 25 点のうち小学校 13 点、中学校 12 点です。教科領域については教科 12 点、各領域 13 点です。応募者については 20 代が 13 名、30 代が 8 名、40 代が 4 名でした。

教科では算数・数学と体育・保健体育、特別の教科道徳が多く、領域では外国語活動が多くなっております。

### (2) 取り組む内容や分野

新しい分野の指導実践が多く、小学校の外国語活動、中学校の特別の教科道徳、ICT による家庭学習支援など新たな教育課題にチャレンジする傾向が見られました。これは教職員の方々の前向きな姿勢とよりよい指導を見いだしたいという強い思いの表れであると感じました。

## 2. 教育実践論文に見られたよさや成果

### (1) 児童・生徒に培いたい見方や考え方、力が明確である

多くの論文の目的意識がここからスタートしています。目の前の児童・生徒のよさと課題、これから培う力、それを求めて実践を開始する姿が多く、教育実践の基本が大切にされていることを感じました。

### (2) 仮説と手立てに新たな可能性を求めている

仮説から手立てを考えるにあたり、大きく二つの手法が見られました。一つは、児童・生徒のつまずきを乗り越えるために指導法を工夫する方法、もう一つは他者の先行研究成果を活用し手立ての複線化を図るものです。先行研究の成果を生かすことは効率も良く、さらに新たな手立てを見いだすきっかけとなっています。

### (3) 実践による児童・生徒の実態と変容を捉えている

児童・生徒の見方や考え方に広がりや深まりがあった、弱かった、取り組む意欲や態度が変化したなど、個の学習状況を捉え続け、手立てを変えていく実践が多くありました。学習前と後とにおいてアンケートを実施し、変容を捉える実践も多かったです。アンケートの内容は意欲や態度のレベルから、わかる、できるというレベル、さらには見方や考え方の変化のレベルまで多様でした。説得力のある実践は見方や考え方まで捉えられていました。

### (4) 成果と課題が具体的で掘り下げられている

一つ一つの手立てについて成果と課題が整理されている実践が多くありました。一方で抽象的な成果と課題も見られました。児童生徒の変容から有効性としての成果と課題をまとめることが重要であると感じました。

## 3. 今後の課題

- ・教育実践論文と教育論文の違いを明確にし、より多くの実践からの検証を重視したい。
- ・仮説に対する手立てについては、先行研究を活用し、基本的な指導法の工夫と合わせることも考えたい。
- ・教育実践の基本は児童・生徒の見方や考え方、技能などが高まることであり、そのためにも意欲や態度、見方や考え方などを幅広く把握し、手立ての検証を確かになりたい。

---

---

# 令和元年度 土岐市実践記録審査講評

土岐市教育研究所 主任 河合 広映

---

---

土岐市教育実践記録は、今年度で3年目を迎えます。

実践記録の募集は、土岐市立の幼稚園、小学校、中学校教職員の日々の実践を、実践記録としてまとめることを通して、実践的指導力の向上を図ることと、応募のあった実践記録を閲覧することを通して、市内の若い先生方の識見を広げ、日々の実践に役立てることを目的としています。実践論文の文量や写真、資料等の制限が今年度から設けられて、経験を積んだ先生方の実践や、若い先生方の新しい試みなどは、なかなか論文からは伝わりにくくなりました。教育研究所は、実践記録の募集を通して、教師としての実践的指導力の向上を図ることだけではなく、普段なかなか交流することの少ない自校以外の先生方の実践を知る機会、見る機会としていただき、新たな気づきと教科や学級経営に対する熱意を感じ取っていただきたいと願っています。

## 1 応募の状況について

今回の募集は、学級通信や職員向け通信の「通信の部」と、教科学習の中で作成した掲示物や教科プリント、児童生徒ノート等の部、それ以外の3部門で募集を行いました。幼稚園の先生から中学校の先生、初めて担任をもった先生からベテランの先生まで、幅広い年齢層の先生方から個人、グループあわせて20点の募集がありました。

## 2 実践記録の内容について

今年度の通信の部では、職員向けに作成された通信が印象的でした。学校が進むべき方向を明確にしながら、「今号のポイント」という欄で生徒指導や学級経営のいろはを具体的に示されていました。ご自身の経験や先生方への思いが綴られ、温かさを感じる作品となっていました。幼稚園からは、壁面制作の記録を写真と共にその制作過程も記された作品の応募がありました。その作品の最後には、園児に向けた通信も綴じられていました。ご自身の実践の記録として宝になっていくことはもちろんですが、こうした作品をこれから担任となる先生方や他の園の先生方にも見ていただいて、制作にかけた思いやその技術をぜひ共有して欲しいと感じました。

記録を残すという意味では、昨年度から小学校で教科化された「特別の教科 道徳」の授業板書をグループでまとめていただいた作品や、特別支援学級の子どもたちのための外国語教材やワークシートなどの教材、ICT機器の活用や、その活用効果、それによる子どもたちの変化などが克明に記されている授業記録などが応募され、それら作品からは、先生方の授業づくりと、子どもたちの成長を願う先生方の熱い思いが伝わってきました。今年度は、あえて記録を残そうと意識され、こつこつと時間を積み上げてきた作品が多かったように思います。来年度、4月の市教研総会の折には、特別賞や教育長賞受賞作品を閲覧する場所を設けます。ぜひ、一度、手にとって見てください。

## 3 今後に向けて

今年度は、幼稚園の園長先生や定年退職後、再任用でご活躍の先生からの実践記録応募もありました。教育に対する情熱を持ち続け、何よりも今までの教員人生での経験や知識を子どもたちに伝えていこうとする、そのメッセージに心を打たれました。来年度は、応募の部門を広げて行く予定です。幼・小・中、幅広い年齢層の方々からの応募を期待しています。

# 令和元年度 学力向上推進委員会 活動報告

学力向上推進リーダー 廣島 由美子

## 1 令和元年度 学力向上推進委員会の取組

### 平成31年度 土岐市学力向上推進委員会重点 子どもたちが、自分で考え、自分から取り組む授業

- 1 教える授業から、子どもたちが考える授業へ
- 2 子どもたちが自ら学ぶ授業
- 3 子どもたちで、学び合う授業

#### <めざす児童生徒の姿>

■「考えてみたい」「話してみたい」「聞いてみたい」という意欲をもち、自分の考えたことやまとめたことを言葉で説明できる児童・生徒…（H31年度）

## 主体性を育む

今年度、学力向上推進委員会では「子どもたちが、自分で考え、自分から取り組む授業」を実現するため、子どもたちの主体性を引き出すために、子どもたちの意識や思考の流れから授業を見つめ直すことを大切に取り組みました。そして、授業改善に向けて各校が取り組んでいることを、3つの切り口で交流し、その実践を整理しました。

#### <指導改善 3つの切り口>

- 1 子どもたちが「やってみたい」「考えてみたい」という学習意欲を喚起する学習課題
- 2 学習内容や目的に応じた話し合い活動の位置づけ
- 3 学びを実感する終末の活動

## 2 学力向上推進委員会の具体的取組と成果

各校の委員が推進した具体的取組は、以下の通りです。

- ① 学校としての取組（焦点化する）を全職員で再確認し、明確にして実践を積み重ねる。その実践を「授業改善 実践記録報告シート」に残す。（土岐市スタンダードの素案作り）

市内小・中学校、各先生方の取組より、多くの実践が集まりました。それを「3つの切り口」で方途別に整理し、以下に記した土岐市共有フォルダ内にまとめました。今後の授業実践にぜひご活用ください。（実践方途分類は、次ページ資料の右側をご覧ください。）

09 学力向上推進委員会⇒\*H31 授業改善 各校実践まとめ⇒授業改善実践まとめ（3つの切り口）

- ② 今年度も「全国学調質問紙」の3つの質問項目について各校で2回実態を把握し、検証を行う。

<令和元年度の検証> 全国学力調査児童生徒質問紙内容 「当てはまる」の割合

- ① 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。」  
目標値：35%（昨年度：27%） 結果：35%⇒40%（小学校：37%、中学校：43%）
- ② 「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う。」  
目標値：30%（昨年度：21%） 結果：24%⇒30%（小学校：28%、中学校：32%）
- ③ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」  
目標値：40%（昨年度：31%） 結果：36%⇒47%（小学校：49%、中学校：45%）

\*今年度結果は矢印の前が1回目（夏休み前）、後ろが2回目の数値

◎どの項目も昨年度より上昇、年度内においても上昇がみられ、「自ら学ぶ授業」への児童生徒の意識の高まりがみられるといえる。

つかむ  
課題づくり  
見通しをもつ

つかむ

- ・今日は～についての学習するぞ。
- ・前は～だけど今日は～だ。
- ・～なのはなぜ？調べたい。
- ・自分たちで課題が作れるぞ。
- ・きっと～だからじゃないかな。考えて、説明しよう。
- ・～を工夫しよう。

自分の考えをもつことが大切

向かう

- ・やりたい！
- ・こうなりたい
- ・今日やることはこれ！
- ・この方法・考え方でやってみよう。
- できた！
- わからない
- ・ほかの方法
- ・聞いてみよう
- ・話してみよう
- ・教科書やノートをみよう
- ・確かめてみたい
- ・できるようにになりたい

なかまと  
深めると楽しい！  
わかる！できる！

深める

- ・～のために話し合おう
- ・最後に伝えられるようにするよ
- わかりやすく伝えよう
- わからないところを伝えよう
- 仲間の意見を聞いて最高の方法をまとめよう
- ・～さんの意見と比べると…
- ・それって～にたとえると…

- つなげる
- 付け足す
- 言い換える
- 比べる
- 理由をつけて
- 尋ねる
- 聞き分ける
- 例える
- 図を用いる

まとめ  
ふいかえり

たしかめ

まとめる・気付く（自覚する）

- ・話合い活動の中で、〇〇さんの～という発言から、△△という考え方を新たに見つけることができたから。
- ・〇〇という資料と△△という資料を比較してみたなら、■■という違いが見えてきたから。
- わからないことを聞いたから。
- 〇〇さんが～という考え方もあるということを知ってくれたから。
- \* 仲間と対話して深まるのは楽しい。

- ・こうすればいいんだ
- ・次はこうしてみよう

1 子どもたちが「やってみよう」「考えてみたい」という学習意欲を喚起する学習課題

Point ★終末に向け、活動が明確な課題（まとめにたどりつく課題）

<実践方途>

- ① 単元の出口を示す（目的を明確に・意識の持続）
- ② 段階的に単元を仕組む
- ③ 資料を提示する（実物の提示、ICT機器の活用等）
- ④ 既習内容の想起・比較

出口の児童・生徒の姿を明確に

2 学習内容や目的に応じた話し合い活動の位置づけ

Point ★話し合い活動の必然 ★話し合いの視点を明確に

<実践方途>

- ① 話し合いの視点を与える
- ② 必然性のあるペア活動の位置づけ
  - (1) 異問題に取り組みせ、説明に必然をもたせる
  - (2) 身につけさせたい考え方の定着のための活動
  - (3) 図や実物とつなげて説明・理解する活動
  - (4) アドバイスし合う活動
- ③ 小集団活動の位置づけ
- ④ スランブル交流の位置づけ（目的と方途を指導）
- ⑤ 中間交流の位置づけ（前半の活動の課題を明確にし、後半に生かす）
- ⑥ 段階的に交流活動を仕組む
- ⑦ 自他の意見の相違を可視化する（心のものさし、心情円、赤白帽子の活用 等）
- ⑧ ホワイトボードの活用
- ⑨ 考え方を広げるための話し方指導
- ⑩ ICT機器の活用

目的・場・形態を明確に

3 学びを実感する終末の活動

Point ★1時間で必ず評価まで行う

★必ず「個」がまとめること

★「できた・わかった」の「どうして」を問う

⇒ どういう「見方・考え方」を働かせ、「学習課題（内容）」に迫ったか、を教師は引き出す。

<教科の本質>

⇒ 誰のおかげで、自分が仲間とどう関わったから、「できた・わかった」のかを教師は引き出す。

<仲間との関わり>

<実践方途>

- ① (1) 振り返りカード等の工夫  
(2) 仲間の考えから学んだことを記入する
- ② 本時の学びの自覚（5段階評価、顔マークで自己評価）

4 その他

<実践方途>

- ① 発問の工夫
- ② 話し方指導 等

<<日々の授業で教師が大切にすること!!>>

★「今日やることはこれ!」とはっきりわかる課題を板書に位置付ける。（教師も子どもも課題＝出口に向けて）

★45・50分の授業で必ず終末（まとめ、練習問題、振り返り等）までやりきる。（楽しさを味わうためにも）

★児童・生徒の話をしっかりと聴く。（価値づけ・つなぎ・切り返し…教師はコーディネーター役）

★分からないと言える・自分の思いが出せる学習集団づくり



## 主体的に学ぶ生徒を育成するための国語科授業の在り方 ～「読むこと」における単元構成の工夫を通して～

土岐市立駄知中学校 松葉 円

### 1 はじめに

教研式標準学力検査の結果からは、本校の2年生は「叙述に即した読み取り」「行動や理由との関係の読み取り」をはじめとする、「読むこと」の力が他の領域と比べて、弱いことが分かった。前述の検査からも「読むこと」を苦手とする生徒は6.2%いるという結果であった。そのため、生徒が自ら「やってみよう」と思えるような学習意欲を促す授業展開を計画し、実施していかねばならないと感じた。

### 2 実践事例

#### (1) 必然性のある単元設定と言語活動

本単元における「単元を貫く言語活動」を「登場人物の設定の仕方や心情を捉え、主人公を替えてリライトし、読みあおう」と設定した。

新学習指導要領「C読むこと」の(2)に位置付けられている言語活動例の「イ 詩歌や物語などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動」から発想した。

この言語活動を通して、目的に応じて必要な情報を読み取る力や、登場人物の言動の意味を考えて、内容を解釈する力や、自分の考えを広げたり深めたりする力を身に付けさせたいと考えた。

「リライト」とは、目的に応じて創造的に書きかえる言語活動である。単元の終末では、自分が読み取った登場人物の心情や人物像をもとに、語り手を入れ替えてリライトし、その作品を読み合うことで、他者の考えのよさを感じたり、自分の考えのよさを認識させたりすることを意図した。学級の仲間と読み合うという目的意識や相手意識をもたせ、活動をより有意義なものにしていこうと考えた。

#### (2) 課題解決型の学習活動

##### 第4時（指導事項 読—イ の場面）

本時までには、心情を読み取っていくためには情景や会話、行動の描写に着目することが重要であるということを学んだ。既習事項を踏まえて、主人公と「喜作」の人物像や心情を読み取っていくために、生徒の初発の感想の中に書かれていた内容から、『喜作』が登場した理由を、主人公や喜作の人物像や心情を踏まえて説明しようを課題とした。（この生徒は喜作が登場するこの場面は「余分な話」と書いていたため。）

これまでの学習で、父の「眠りを寸断してまでもえびフライを持ってくる」という行動描写から、父の家族に対する深い愛情や、主人公の「えびフ

ライ」に対する好奇心をとらえてきた。ここで、作品のテーマである「家族」とは関係のない「喜作」の登場を考えることによって、主人公の「家族」に対する思いがより強く描かれていることを理解させつつ、作品における「家族や親子の関係」「登場人物の人物像」に対する解釈を深めさせた。生徒の声から生まれた課題を解決していくという必然性が、意欲にもつながったと考えられる。

#### (3) 実態を踏まえた学習形態の工夫

##### 第2～7時（指導事項 読—イ の場面）

学力検査で明らかとなった「行動や理由との関係の読み取り」の弱さを改善する手立てとして、ホワイトボードを用いた。個人の時間で読み取りをした後、ホワイトボードを用いて考えを共有するように活動を仕組んだ。

ホワイトボードで交流することにより、根拠とともに因果関係を視覚化することができた。弱さである、行動や理由との関係性を線をつなぎ、仲間との交流の中で変化したことを修正していくことで、自分の考えを深めることにもつながったと考える。

- S 1 : なんでこの場面で関係のない人を出したのだろう。  
 S 2 : 喜作って関係ないのかな？  
 S 3 : 家族ではないよね。でも、喜作も主人公と同じ状況なんじゃない？  
 S 2 : どうしてわかるの？  
 S 3 : だって「派手な色のTシャツと、花火を刀のように差してる」よ。喜作のお父さんも出稼ぎに行ってるんだよ。  
 S 2 : じゃあ、同じ状況ということは比べられるということだから、線をつなげておこう。  
 S 4 : じゃあ、その線に「えびフライ」と「花火とTシャツ」をつなげて書いてみるよ。

（生徒の班活動の様子より）

### 3 成果と課題を踏まえた今後の方向

必然性のある単元設定と言語活動では、生徒が必然性を意識して活動できる単元を設定したため、生徒は主体的に活動に取り組む姿がみられた。

出口の活動に向けて、段階的に学習を進めていくなかで、学びが繋がっているということが生徒のリライトした作文からわかった。今後も継続していくためには、生徒の学習ノートを丁寧に見ていくことと、生徒の発言をもとに課題を設定していくことを大切にしたい。

## 「私の教育実践」

# 大学院研修で学んだこと

駄知小学校 教諭 道下 直矢

昨年度までの2年間、鳴門教育大学大学院で研修をさせていただきました。大学院では、土岐市の学校保健大会で講演をされたこともある、山崎勝之教授にご指導を仰ぎました。

山崎教授の研究では、自己肯定感を「適応的」なもの、「不適応的」なものに弁別する研究が行われています。そして適応的な自己肯定感とは、「1. 自己信頼心」、「2. 他者信頼心」、「3. 内発的動機付け」の3つが相互に関連しながら高まると考えられています。

そこで、今年度は自己肯定感を育むために上記の3つを高めることを意識して指導を行いました。

1や2を育成する手立てとしては、「構造的エンカウンター」や「よさ見つけ」などがあります。他者から承認されることで、自信につながり、肯

定的に捉えてくれる他者への信頼につながります。また、「アサーショントレーニング」で自分も相手も大切にしたい声のかけ方を指導しました。

3の内発的動機付けを高めるには、児童の自己実現欲求を大切にすることが重要です。教師の一方的な指示ではなく、児童自身が「こうしたい」という思いを吸い上げ取組などを設定しました。児童が考えた取組には必ず、肯定的なフィードバックを行うようにしました。

2年間の研修では、全4時間の「自己肯定感を高める」教育プログラムも開発し、今年度駄知小5年生でも実施しました。すでに他県でも実施されていますので、興味のある方はぜひ鳴門教育大学のHPをご覧ください。実施していただければと思います。

## 「心にひびく言葉」

# 「夢や希望をもつこと」

土岐津中学校 教頭 景山 国博

「夢や希望を持てと大人はよく言うがそれは本当に意味があるから言うのだと思う。なぜなら、夢があるから辛いことを乗り越え、夢があるから他人に優しくでき、夢があるから自分を大切にできる。だから私も君たちに夢や希望の話をするよ。」

私が今まで子供たちへのメッセージとしてよく話してきた内容である。夢や希望でなくても、趣味や好きなこと、自分が落ち着くこと、なども同じだと私は思う。私自身、自分の趣味に救われた経験がある。

また、昨年のラグビーワールドカップや野球のプレミア12のように、一生懸命な姿に感動する瞬間は「夢や希望をありがとう」と言い換えられることもある。

話は変わって、私が昨年の夏、学校で草刈りをしていると、3人の生徒が通りかかった。私はエンジンを止め、「こんにちは。」と話しかけると、「こんにちは。教頭先生、私たちのためにありがとうございます。」という言葉が返ってきた。私は嬉しくなり、その後の作業がはかどった。

一生懸命になっている瞬間は自分のためになるだけでなく、それを見ている周りにも感動を与える。また、相手を思う言葉や挨拶は自分も周りもいい気分になれるものだ。

AIやロボットなど科学技術の進歩によりますます未来は便利になるだろう。だからこそ、子供たちにはわくわく感を持って、夢・希望・思いやりを大切に生きていってほしいと思っている。